

MESSAGE



大きな可能性を秘めた 新しい医療提供体制

岩国市地域医療課地域医療班
主事

藤堂 修

へき地、離島における医療の確保については、喫緊の課題のひとつであるとともに、遠隔医療に取り組む絶好の地域であると考えています。山口県立総合医療センター、山口県、関係機関、へき地離島を有する自治体の協力により、遠隔医療という大きな可能性を秘めた新しい医療提供体制の検討、導入に携わることができ、正直なところ不安もありますが、今後のへき地、離島における医療提供体制の確保に大いに期待しているところです。



玖北地域の医療システムの 充実を目指して

岩国市立本郷診療所
所長

西村 謙祐

私が勤務する岩国市北部のへき地である玖北地域は、今後、地域包括ケアの推進が求められています。しかし、十分な医師数を確保出来ず、在宅診療の提供や、診療時間外の対応にも限りがあります。そこで、以前からオンライン診療の利用と訪問看護の充実化により、地域包括ケアを提供できる仕組みを構築することを考えていました。山口県へき地遠隔医療推進協議会に参加し、オンライン診療について、実際に活用している事例、現状の課題、今後の展望について、知見を深めることができました。これを機に、オンライン診療の導入及び、それを一つの柱として、玖北地域の医療システムを充実させて参ります。



貴重な意見を学ぶことができ 非常に有意義だった

鳥羽市立神島診療所（三重県）
所長

小泉 圭吾

三重県鳥羽市は4つの離島を抱えています。人口の加速度的な減少を鑑みると新たなへき地離島医療の形を構築すべき段階です。そこで市では面で支える方法としてグループ診療とオンライン診療を組み合わせ、離島への継続的な医療を提供することを目指しています。今回山口県へき地遠隔医療推進協議会に参加させていただきましたが、山口県の先進的な取り組みや、多様な職種の方から貴重な意見を学ぶことができ非常に有意義でした。へき地の人口は減っていくが医療を提供する範囲は変わらない。新たなフェーズに入ったへき地医療の解決策として、オンライン診療を有効に活用できるよう強く願っています。

オンライン診療を通じて 医療と安心を地域の皆さんへ

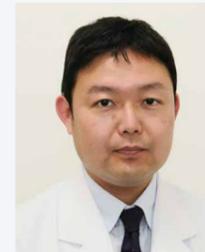
2018年、指針や診療報酬が整備され、事実上、オンライン診療が解禁されました。山口県のへき地の医師不足が年々深刻化するなか、遠隔診療やクラウド型電子カルテの導入など、ICTの活用によるへき地医療支援体制の充実が期待されています（第7次山口県保健医療計画）。技術的には可能で、へき地でその活用が望まれても、山口県ではへき地におけるオンライン診療の前例がなく、実際は様々な制約があり、実用的な導入が進まないことが分かりました。

この状況を打破しようと、2018年9月、「山口県へき地遠隔医療推進協議会」が立ち上がりました。予算はほぼない状態でしたが、皆さまのご理解とご協力のおかげで、これまで3回の協議会を重ね、有意義な情報共有と議論をすることができました。この場を借りて心より感謝申し上げます。

そして、皆さまの熱い気持ちと行動が国に伝わり、2019年度、へき地のオンライン診療について厚生労働省の科学研究費により調査・研究をさせていただく機会をいただきました。

人口減少で過疎化が進む離島・へき地の地域住民にどうやって医療と安心を届けるのか。へき地であっても、どうやって住み慣れた地域で安心して最期まで自分らしく暮らせるのか。オンライン診療ですべてを解決できるとは思いませんが、少しでもへき地に暮らす皆さんに医療と安心が届けられることを期待しています。

これからも皆さまの熱い思いでこの協議会を支えていただけると幸いです。



山口県立総合医療センター
へき地医療支援センター
センター長

原田 昌範



地方独立行政法人 山口県立病院機構

山口県立総合医療センター

TEL 0835-22-4411 FAX 0835-38-2210

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地

山口県立総合医療センター



<https://www.ymgph.jp>



山口県へき地 遠隔医療 推進協議会

Yamaguchi Telemedicine

へき地は、遠隔医療で もっとももっとつながっていく

The remote place is connected by the telemedicine.

PURPOSE

研究目的

オンライン診療は、元来、厚生労働省の通知にもある通り、離島やへき地で限定的に認められてきた経緯があり、その後平成30年にへき地等に限らないオンライン診療の指針が整備された。平成31年度の指針改訂においては、患者が看護師という場合(D to P with N)のオンライン診療など新たな形態として位置付けられた。しかし、現在、オンライン診療を実施している医療機関は都市部に集中しており、へき地や離島等を含む郡部においては、有効に活用されている実例が少ない。

実際、山口県においても離島やへき地におけるオンライン診療の実例はない。山口県のいわゆるへき地は県土の6割を占め、21の有人離島はすべて小規模離島(人口1000人未満)である。平成30年の調査で山口県は医師少数県(下位16位)とされ、へき地・離島の総合診療に携わる医師不足は深刻である。近年県内3箇所の離島で常勤医師が病気を理由に退職したが、後任の補充はなく、すべて非常勤体制となり、診療日数が減少した。遠隔医療(オンライン診療)による診療支援体制の補完も期待されたが、実際は導入されず、島民のための医療環境は悪化した。医師不足の状況のなか、今後も離島・へき地では同様の事態が予想されるため、「山口県立総合医療センターへき地医療支援部」は、平成30年9月、国のオンライン診療の指針の整備に合わせ、離島やへき地の質の高い医療を確保することを目的に「山口県へき地遠隔医療推進協議会」を設置した。山口県へき地医療支援機構および県内のへき地を有する自治体、大学等の専門家を含む関係者が集まり、へき地におけるオンライン診療の現状分析や課題解決に向け取組をスタートした。併せて、各自治体と連携し、へき地に暮らす地域住民のニーズ調査も始めた。

本研究を通じて、離島やへき地におけるモデルとなる導入事例を示し、総合診療医を軸とする我が国の「へき地医療」の推進にあたり、どのようなオンライン診療体制の構築が有効であるかを明らかにする。

一方、国土の広い、米国、カナダ、オーストラリア等では遠隔医療が進んでいると言われている。例えば、米国の40~50%の病院はなんらかの遠隔医療を利用していると報告されている。離島やへき地において有効にオンライン診療を活用している他国の制度設計についての調査研究を行い、日本の指針の改訂の参考になる事項を検討する。

EFFECT

期待される効果

本研究を通じて、現在の日本の医療制度において、離島やへき地におけるオンライン診療の導入が進まない要因を調査し明らかにすることができる。へき地における実際の導入事例を通じて、郡部ではどのようなオンライン診療が有効であるかを本研究で示すことにより、全国の離島・へき地にオンライン診療が広がっていくことが期待できる。特にひとりでも守るへき地診療所や非常勤体制のへき地診療所では、効果的なオンライン診療を導入することで、継続的な医療を提供できる可能性がある。持続的な医療提供体制の確保は、地域住民だけでなく、へき地医療を担う医療従事者にも安心と安全を担保し、医療資源が乏しい地域でも「地域包括ケアシステム」の実現が期待できる。

また諸外国のへき地における遠隔医療の現状や課題を比較することにより、我が国の離島・へき地におけるオンライン診療の課題や取り組むべき方向性が明らかとなり、指針の改訂に役立つ。

本研究の協力者およびチームが、離島・へき地を支える全国的な組織(自治医科大学、公益財団法人地域医療振興協会、日本プライマリ・ケア連合学会等)と連携することで、全国的なへき地オンライン診療ネットワークの構築も視野に、この取り組みを拡充できる可能性がある。へき地オンライン診療のモデルケースの継続的な実施と検証を目的に「へき地オンライン診療運営会議(仮称)」の設置も検討しうる。



METHOD

研究計画・方法

2019

①平成30年に設置した「山口県へき地遠隔医療推進協議会」のメンバーを基本的に県内外に研究協力者を募り、「へき地オンライン診療運営会議」を発足する。

②離島へき地におけるオンライン診療の課題の整理、モデルケースの検討および実施、諸外国との比較調査についてそれぞれチームを編成する。

③離島へき地におけるオンライン診療の課題の整理
 ・へき地の住民のニーズ調査
 → アンケートの実施(岩国市、周南市、山口市)
 ・意識調査(行政サイド、医療従事者サイド)
 → アンケートの実施(へき地を有する各自治体)
 ・法的な整理(医師法、医療法等)
 ・診療報酬の整理(請求について、事業の持続性について)
 ・薬剤・処方に関することの整理
 (オンライン診療服薬指導、電子処方箋等)
 ・あらかじめ医療情報を共有すること
 (クラウド型電子カルテ、同意書・診療情報提供書等)について
 ・オンライン診療の地理的な範囲について
 (2次医療圏を越えるへき地医療支援)
 ・受講必須のオンライン診療研修について
 ・看護師等(with Nurse)の診療範囲について
 (特定看護師、看護師、その他の医療従事者)
 ・へき地における通信機器、通信手段、ネットワーク、セキュリティ等

④モデルケースの検討
 ・モデルケースを数パターン検討
 (D to D, D to P, D to P with N)
 (例)
 ①巡回診療
 :萩市相島地区、山口市柚木地区
 ②医師派遣(非常勤医師+常勤看護師)
 :周南市鹿野診療所
 ③医師派遣(非常勤医師+非常勤看護師)
 :岩国市柱島
 ④へき地診療所(常勤医)
 :岩国市本郷診療所
 ・モデルケースにおける検証する項目の検討

・あらかじめ医療情報を共有すること
 (クラウド型電子カルテ、同意書・診療情報提供書等)
 ・オンライン診療に使用するデバイスの検討(電子聴診器)
 ・実施に向けての組織「へき地オンライン診療運営会議(仮称)」の設置の検討

⑤諸外国との比較調査について
 ・米国、カナダ、オーストラリア、欧州、アジア
 ・調査項目の検討と確定
 ・実際に渡航し、オンライン診療を担当する医療従事者や患者へのインタビュー等

⑥運営会議を定期的に行い、各チームの進捗状況を確認する

2020

①離島へき地におけるオンライン診療の課題について取りまとめる。へき地の住民のニーズ調査および意識調査のアンケート調査を取りまとめる。遠隔医療学会、へき地・地域医療学会、日本プライマリ・ケア連合学会等で報告する。

②検討したモデルケース(数パターン)を実践し、検証する。実施した医療従事者(医師、看護師等)、患者へのインタビュー、アンケートの実施。検証項目の評価。

③まだ調査できていない国について調査する。諸外国との比較調査について取りまとめる。遠隔医療学会、へき地・地域医療学会、日本プライマリ・ケア連合学会等で報告する。

④運営会議を定期的に行い、各チームの進捗状況を確認し、最終的な取りまとめを行う

⑤「へき地オンライン診療運営会議(仮称)」の運営
 モデルケースの継続的な実施と検証を行う

⑥「へき地オンライン診療ネットワーク」の設置を検討
 研究協力者や各チームが離島・へき地を支える全国的な組織(自治医科大学、公益財団法人地域医療振興協会、日本プライマリ・ケア連合学会等)と連携することで、全国的なへき地オンライン診療を牽引するネットワークを構築し、本研究の成果の拡充を図る。

MESSAGE



活用について検討する 取組みは大変有意義

山口県健康福祉部医療政策課
へき地医療支援機構 主査

末永 正則

へき地・離島の人口減少が進む中、地域の実情を踏まえながら、へき地診療所や病院との連携体制を構築するなど、効率的な医療提供体制を確保することが重要です。こうした課題に対応するため、県内外の医療関係者・情報システム関係者・行政で構成する「山口県へき地遠隔医療推進協議会」が、当該地域におけるオンライン診療にかかる現状や課題を共有し、それぞれのアイデア・スキルを持ち寄り、その活用について検討する取組みは有意義であり、本協議会を通じて、全国に先駆けて仕組みが構築され、オンライン診療の具現化に向けた取組みが推進されることを期待しています。



未来のへき地遠隔医療を 情報技術で支援したい

山口大学工学部
准教授

平野 靖

第1回の協議会から参加させていただいています。最初は30名程度の参加者であったのが、回を追うごとに、他県や医療関係者以外のメンバーが増えてきており、へき地における遠隔医療の重要性や関心の高さ(と原田先生の人脈の広さ)を痛感しております。私は情報工学を専門とする大学教員ですので、未来のへき地遠隔医療を情報技術(IT, ICT)で支援していきたいと思っています。現在、さまざまな分野でICTが活用されています。へき地遠隔医療も乗り遅れないように一丸となって頑張っていきたいと思います。



導入が進んでいない諸々の 課題を勉強させて頂いた

株式会社NTTデータ経営研究所
課長

岸本 純子

へき地における医師対医師(DtoD)の遠隔医療の実施状況を調査するため、地域医療振興協会の木下先生にお話しをお伺いした際に、本協議会の取り組みについてご紹介頂きました。もともと遠隔医療は離島・へき地など医療アクセスの悪い地域で普及が進んでいるべきであるところ、特に医師対患者(DtoP)の遠隔医療の実施例がほとんどありませんでした。本協議会に参加させて頂き、現地で導入の必要性が高いにも拘わらず、導入が進んでいない諸々の課題を勉強させて頂きました。本研究会にて都市部でのオンライン診療とは違う形態での離島・へき地における普及モデルになるようなオンライン診療の在り方の検討に貢献できたらと思っています。

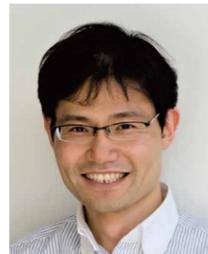


遠隔医療を普及させるために 知恵を絞っていく必要がある

(公社)地域医療振興協会
常任理事

木下 順二

遠隔医療はへき地・離島のために有用だと、そんなイメージが世間的にも浸透しているように思われる。確かに技術面では大きなハードルは無く、インターネット接続さえ確保できればビデオ通話の手段は様々に提供されている。しかし実際にはへき地・離島での遠隔医療の普及は遅れている。山口での3回の協議会を通じて、その足かせは診療報酬や投薬手段など基盤となる社会的な仕組みの未整備であり、適切な収益を伴う持続可能なサービスとしての遠隔医療の提供が現状では困難だとわかってきた。収益のみを追った野放図な遠隔医療を防止しつつ、へき地・離島の住民にとって本当に役に立つ遠隔医療を普及させるために、知恵を絞っていく必要がある。



将来のへき地医療を話し合う 全国でも珍しい試み

東海大学健康学部
准教授

古城 隆雄

第1回の協議会で共同研究会のご提案したところ、6市町(1市オブザーバー)からご参加の申し出をいただきました。県、市町、大学が一緒になり、将来のへき地医療を話し合う全国でも珍しい試みです。昨年度は、地域診断シート、診療所シート、緊急時の連絡、搬送チャート図を作成することができました。今年は住民の方へ、将来の医療体制や暮らしに関して伺いするアンケートを実施する予定です。協議会でも進捗状況を報告しながら、一歩、一歩、皆様とともに進めていく決意です。



調査と情報提供、事例と エビデンスがミッション

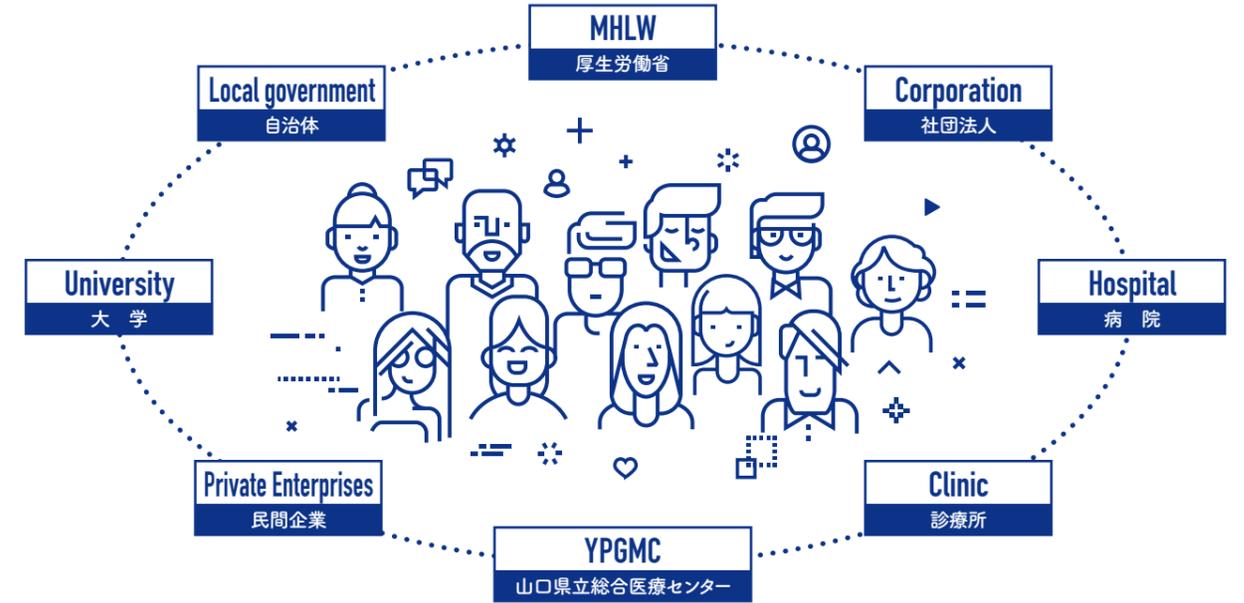
TXP Medical株式会社
代表取締役・医師

園生 智弘

救急医として働きつつTXP Medical株式会社を立ち上げ、医療における適切なIT活用につき発信をしております。山口県のへき地におけるオンライン診療の活用に関しては、2年前くらいよりお手伝いさせていただいております。技術の進歩によりオンライン診療やクラウド利用は安全になっています。そのような最新の技術動向につき調査と情報提供を行うこと、およびへき地にこそオンライン診療の活用余地があることを事例とエビデンスをもって中央省庁に確実に届けていくこと、の二つが私のミッションであると考えております。皆様どうぞよろしくお願い致します。

LINK

へき地の遠隔医療を推進・実現させるために
さまざまな連携の輪が広がっています。



参加者一覧

- ・ 厚労省医政局医事課
- ・ 公益社団法人 山口県歯科医師会
- ・ TXP Medical株式会社
- ・ きりんカルテシステム株式会社
- ・ 日本マイクロソフト株式会社 医療・製薬営業統括本部
- ・ 山口大学工学部
- ・ 山口大学医学部
- ・ 山口大学大学院医学系研究科 医療情報判断学
- ・ 山口大学 大学研究推進機構 URA室
- ・ 公益社団法人地域医療振興協会
- ・ 台東区立台東病院
- ・ 山口県健康福祉部医療政策課 へき地医療支援機構
- ・ 株式会社NTTデータ経営研究所ライフ・バリュー・クリエイションユニット
- ・ 東海大学健康学部
- ・ 一般社団法人山口県薬剤師会
- ・ 一般社団法人山口県薬剤師会 薬品情報センター
- ・ 萩市保健部地域医療推進課
- ・ 萩市休日急患診療センター
- ・ 山口市健康福祉部 健康増進課
- ・ 山口市徳地総合支所 総合サービス課
- ・ 周南市福祉医療部地域医療課
- ・ 周南市福祉医療部地域医療課 鹿野診療所
- ・ 社会福祉法人鹿野福祉会
- ・ 光市健康増進課
- ・ 柳井市立平郡診療所
- ・ 柳井市役所健康福祉部健康増進課
- ・ 岩国市地域医療課地域医療班
- ・ 国立病院機構岩国医療センター
- ・ 岩国市立錦中央病院
- ・ 岩国市立本郷診療所
- ・ 下関市保健部地域医療課
- ・ 下関市立豊田中央病院
- ・ 下関市立豊田中央病院事務局
- ・ 萩市国民健康保険須佐診療センター
- ・ 上関町役場 保健福祉課健康増進係
- ・ 周防大島町立橋病院
- ・ 三重県鳥羽市立神島診療所
- ・ 三重県鳥羽市健康福祉課健康係
- ・ 三重県医療保健部
- ・ 佐賀県唐津市保健福祉部保健医療課地域医療係
- ・ 佐賀県庁医務課
- ・ 佐賀県唐津保健福祉事務所
- ・ 神戸大学大学院医学研究科 医学教育学分野 地域医療教育学部門
- ・ 神戸大学
- ・ 呉医療センター・中国がんセンター
- ・ アンター株式会社
- ・ 東北大学大学院歯学研究科歯学イノベーションリエンジセンター
- ・ 糖尿病ケアサポートオフィス
- ・ 山口県立総合医療センター
- ・ 山口県立総合医療センター 情報統括管理室
- ・ 山口県立総合医療センター へき地医療支援部

第1回 2018.9.21

■日時:平成30年9月21日(金)13:30~16:30
■場所:山口県立総合医療センター救急棟2F(母子保健指導室)
(〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077)

協議会スケジュール

13:30-13:35 [はじめに]

へき地医療支援部 診療部長 原田 昌範

13:35-14:45 [遠隔医療における現状・課題の共有]

座長:原田 昌範

- (1) 山口県のへき地医療の現状と遠隔医療に期待すること
山口県へき地医療支援機構(山口県医療政策課) 堀 泰志
- (2) これからのへき地保健医療対策の方向性
東海大学健康学部 准教授 古城 隆雄
- (3) 地域医療振興協会のへき地医療対策のこれから
公益社団法人地域医療振興協会 理事 木下 順二
- (4) へき地遠隔医療の現状と課題とこれから
日立総合病院救急集中治療科 園生 智弘
- (5) 高知県の遠隔医療の事例紹介
へき地医療支援センター 部長 宮野 馨

(6) クラウド型電子カルテの取り組み
山口大学工学部 准教授 平野 靖

15:00-16:15 [グループワーク+発表]

司会 原田 昌範

テーマ:「へき地における遠隔医療の可能性を考える」

16:15-16:30 [次回にむけて]

To Doリストの作成、次会開催日程について
挨拶:山口県へき地医療支援機構 堀 泰志



第2回 2019.2.22

■日時:平成31年2月22日(金)14:00~16:30
■場所:山口県立総合医療センター救急棟2F(講義室)
(〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077)

協議会スケジュール

14:00-14:10 [ご挨拶・はじめに]

ご挨拶:山口県立総合医療センター 院長 武藤 正彦
はじめに:へき地医療支援部 診療部長 原田 昌範

14:10-15:00 [第1回協議会からの進捗状況の共有]

- (1) 国への照会の結果および山口県へき地医療専門調査会に向けて
山口県へき地医療支援機構(山口県医療政策課) 堀 泰志
- (2) 研究チームの起ち上げと進捗状況
東海大学健康学部 准教授 古城 隆雄
- (3) 遠隔医療についてのUpToDate
日立総合病院救急集中治療科 園生 智弘
- (4) クラウド型電子カルテを用いた臨床研究について
山口大学工学部 准教授 平野 靖
- (5) 電子カルテデータを用いた分析
公益社団法人地域医療振興協会 台東病院 総合診療科 藤原 直樹

15:00-15:20 [特別講演]

「遠隔医療モデル参考書の改訂に向けて」

株式会社NTTデータ経営研究所
ライフ・バリュー・クリエイションユニット 岸本 純子

15:30-16:20 [クロストーク]

テーマ:「山口県におけるへき地遠隔医療の具体例を企画する」
ケース1:医師派遣(週1~3日)+常勤看護師(例:周南市鹿野診療所)
ケース2:巡回診療(例:萩市相島)

16:20-16:30 [次回の協議会開催にむけて]

・内容について
・日程について
・その他(情報発信)

16:30 [おわりに]

挨拶:山口県へき地医療支援機構(山口県医療政策課) 堀 泰志



第3回 2019.7.17

■日時:令和元年7月17日(水)14:00~17:00
■場所:ルルサス防府 多目的ホール
(〒747-0035 山口県防府市栄町1-5-1)



協議会スケジュール

◎総合司会:へき地医療支援部 部長 中嶋 裕

14:00-14:20 [ご挨拶・はじめに]

ご挨拶:山口県立総合医療センター 院長 武藤 正彦
はじめに:へき地医療支援部 診療部長 原田 昌範

14:20-15:20 [進捗状況の共有]

司会:へき地医療支援部 部長 宮野 馨

- (1) 国への照会内容および山口県へき地医療専門調査会
山口県へき地医療支援機構(山口県医療政策課) 主査 末永 正則
- (2) 学会報告「第13回へき地・地域医療学会」
公益社団法人地域医療振興協会 常務理事 木下 順二
- (3) 三重県鳥羽市の離島・へき地医療の現状とこれから
鳥羽市立神島診療所 小泉 圭吾
- (4) クラウド型電子カルテを用いた臨床研究について(続報)
山口大学工学部 准教授 平野 靖
- (5) 医師同士のオンライン相談
アンター株式会社代表取締役 中山 俊
- (6) 最近の医療ICTによる取り組み
日立総合病院救急集中治療科 園生 智弘

15:30-16:10 [特別講演]

座長:山口県立総合医療センター 院長 武藤 正彦
テーマ:「オンライン診療の現状と課題、そしてこれから
~へき地医療にオンライン診療をどう活かすか~」
演者:厚生労働省医政局医事課
企画調整室専門官 加藤 琢真氏
企画法令係 来嶋 里沙氏

16:15-17:20 [シンポジウム]

司会:へき地医療支援部 診療部長 原田 昌範
テーマ:「へき地遠隔医療(オンライン診療)のモデル事例を企画する」
■コメンテーター:
・厚生労働省医政局医事課企画調整室専門官 加藤 琢真先生
・萩市むつみ診療所(山口県医師会常務理事) 前川 恭子先生
・株式会社NTTデータ経営研究所 岸本 純子先生
■プレゼンター:
①へき地巡回診療モデル(萩市相島文化センター)
山口県立総合医療センターへき地医療支援部 中嶋 裕先生
②へき地診療所・非常勤支援モデル(岩国市柱島診療所)
岩国医療センター循環器内科 田中屋 真智子先生
③へき地診療所・常勤モデル(本郷診療所)
岩国市立本郷診療所 所長 西村 謙祐先生

